

岩手県スポーツ推進委員協議会

発 行

総務委員会

No. 5

2025. 12. 1

会 報

全国スポーツ推進委員研究協議会

長野大会

令和7年11月13日（木）～14日（金）、長野県長野市、千曲市、須坂市にて「第66回全国スポーツ推進委員研究協議会 長野大会」が開催されました。

大会テーマは 「行こう！地域スポーツの頂へ」

～日本のアルプス 信州からスポーツのつながりを全国へ～

この研究協議会は、全国のスポーツ推進委員が一堂に会し、スポーツ推進委員の目指す方向や地域スポーツの今日的な課題について研究協議し、スポーツ推進委員の資質向上を図るとともに、生涯スポーツの振興に資することを趣旨として開催されました。

遠くに見える山々は雪で白くなっているところもありましたが、長野市内は紅葉がちょうど見頃になっていました。



【主会場のビッグハット】



【受付は QR コードで実施】

開会行事の会場は1998年長野オリンピックのアイスホッケー会場となった長野市にあるビッグハット。歓迎アトラクションそして開会式ならびに表彰式が行われました。

表彰式において岩手県からは文部科学大臣表彰ならびに功労者表彰、30年勤続表彰あわせて8名の方が受賞されました。



【ビッグハットアリーナの様子】



【エントランス・ロビーの様子】



【エントランス・ロビーの様子】



【エントランス・ロビーの様子】

歓迎アトラクション



【高山アルプホルン・クラブ】



【長野商業高校チアリーディング部】

アルプスの少女ハイジのようなコスチュームに身を包み、会場にアルプホルンの音色が響きました。また、チアリーディング部 PANTHERS は元気のいいキビキビした演技で会場の皆様を楽しませてくれました。

開会式



開会の言葉 【松井元実行委員会会長】



あいさつ 【大杉住子さん（総括官）】

《表彰状をいただいた岩手県関係者の皆様》



【信州のキャラクター、アルクマも一緒にお祝いしています】

基調講演

演題 「今日を生き抜く — 普通の私がカナダ初の金メダルを掴むまで」

講師 出口 クリスタ 氏 (パリオリンピック柔道女子 57 kg級金メダリスト)



出口クリスタ氏は、1995年、長野県塩尻市出身、カナダ出身の父と日本人の母を持つハーフとして生まれ、3歳から柔道を始める。中学時代には全国中学校柔道大会で3位入賞を果たすなど早くから頭角を現す。山梨学院大学在学中の2017年にカナダ代表として本格的に国際舞台へ。2024年のパリオリンピックでカナダ柔道史上初の金メダリストとして名を刻んだ。幼少期から金メダル獲得、そして現在までの出口氏ならではの困難に満ちた成長過程を講演していただいた。

シンポジウム

テーマ 『「つくる／はぐくむ」・「誰もがアクセスできる」・「あつまり、ともに、つながる」 地域スポーツ環境を作るために』

コーディネーター 柳沢 和雄 氏（武庫川女子大学 教授）

シンポジスト 西原 康行 氏（新潟医療福祉大学 副学長）

篠原 菊紀 氏（公立諏訪東京理科大学 特任教授）

白井久仁子 氏（長野県スポーツ推進委員協議会副会長・女性委員会委員長）



【シンポジウムの様子】



【柳沢 和雄 氏】



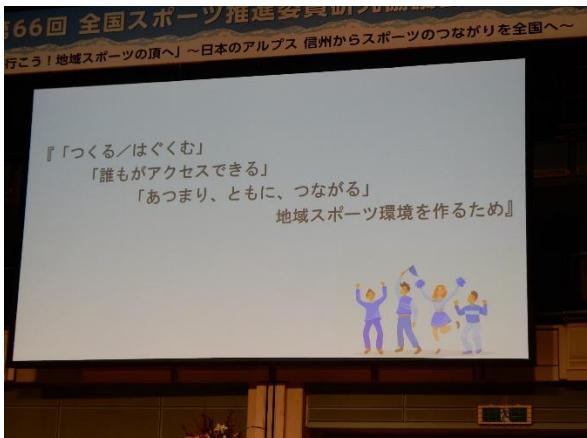
【西原 康行 氏】



【篠原 菊紀 氏】



【白井 久仁子 氏】



シンポジウムでは、多様な人々のスポーツの機会の創出と健康増進、スポーツによる地方創生やまちづくり、そしてスポーツを通じた共生社会の実現を目指してスポーツ基本計画が展開されています。また、少子高齢化が加速する中で、総合型地域スポーツクラブの登録・認証制度や部活動の地域展開が始まるなど、地域のスポーツ環境は大きな変化に直面しています。シンポジウムでは、それぞれの立場から複雑化する地域スポーツをめぐる課題について意見交換を行なわれるとともに、スポーツ推進委員に期待される役割について研究協議が進められました。

《分科会》

〈第1分科会〉 会場 ビッグハット

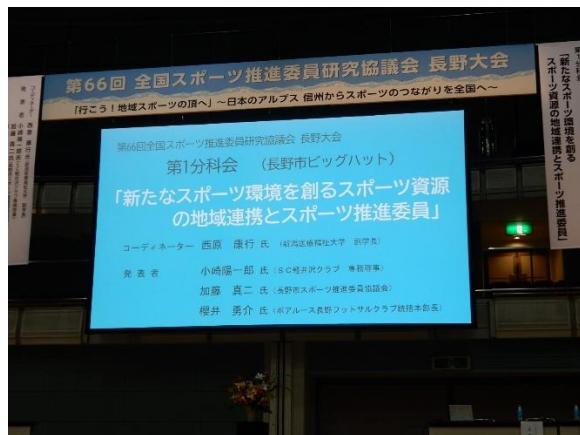
テーマ 「新たなスポーツ環境を創るスポーツ資源の地域連携とスポーツ推進委員」

コーディネーター 西原 康行 氏（新潟医療福祉大学 副学長）

発表者 小崎陽一郎 氏（SC 軽井沢クラブ 専務理事）

加藤 真二 氏（長野市スポーツ推進委員協議会）

櫻井 勇介 氏（ボアルース長野フットサルクラブ 統括本部長）



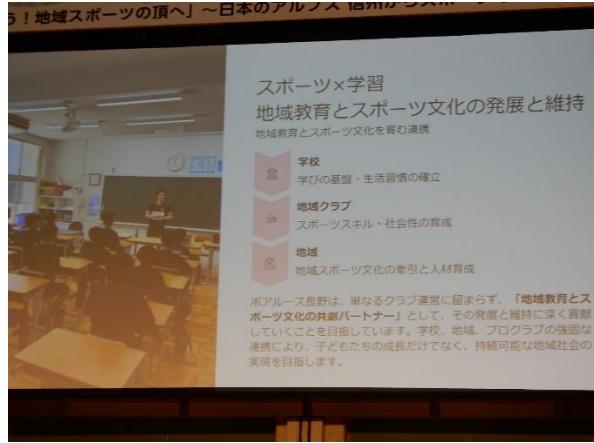
【西原 康行 氏】



【小崎 陽一郎 氏】



【加藤 真二 氏】



【櫻井 勇介 氏】

第1分科会では、地域にあるさまざまな「スポーツ資源」【人的（スポーツ推進委員、スポーツ団体）、物的（施設）、施策的（行政）、情報（SNS）等】の連携から、持続可能でより大きな効果を生み出す新たなスポーツ環境の構築が求められています。事例発表からはまずは今から始められる連携、そして新たな仕組みや環境づくりについての糸口を探り、ダイナミックなスポーツネットワーク（つながり）に向けて議論を深めました。

〈第2分科会〉 会場 千曲市上山田文化会館

テーマ 「子どものスポーツ権を保障する学校部活動の地域展開とスポーツ推進委員」

コーディネーター 柳沢 和雄 氏

発表者 宮本 恵美 氏 (NPO法人 さなだスポーツクラブ クラブマネジャー)

山根 義夫 氏 (千曲坂城クラブ 総括コーディネーター)

吉田 勝光 氏 (長野県教育委員会事務局 総括コーディネーター)

第2分科会では、文部科学省・スポーツ庁が進めている「学校部活動の地域展開」は、子どもたちのスポーツ・文化活動の持続可能性を確保するための重要な改革です。この取り組みは、教育・福祉・スポーツが地域生活のなかで交差する政策課題であり、地域におけるスポーツ推進委員の活躍が不可欠とされています。地域展開の最前線にある実践者の声を手がかりに学び、課題と可能性と共に描きながら、地域の未来を見据えた議論を深めました。



【地域の実情に応じた取組を紹介していただきました】

編集後記

全国研究協議会に限らず東北地区研修大会や岩手県研修会などに参加の際、研修はもちろんしっかり行いますが、その地域ならではの観光やお土産、グルメも気になります。今回は長野、といえば「善光寺」というくらい有名ですが、私にとっては1998年開催の長野オリンピックの時、聖火ランナーとして盛岡市内を手にトーチを携え走らせていただいた想い出があります。長野市内にはその時のレガシーが各所に多数残っており、それらも今回の研修の楽しみとさせていただき参加致しました。



岩手県スポーツ推進委員協議会常任幹事総務委員会 山形 幸一